

第8回とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会議 議事録

- ・日時：令和8年8月7日（金）午前10時～正午
- ・方法：オンライン開催
- ・出席者：行政、社会福祉法人、民間支援機関等

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

開始時刻となりましたので、ただいまから第8回とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会議を開催いたします。よろしくお願いします。

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日、参加団体34団体の内、参加申込みが全団体からあり、申込みどおり全団体参加いただいていますので、3分の2以上の出席となりましたので、規約第11条により本会が成立となりますのでご報告します。

それでは開会に際しまして、遠藤政策統括監よりご挨拶を申し上げます。

<鳥取県 遠藤政策統括監>

皆様おはようございます。本日はプラットフォーム会議にご参加いただき本当にありがとうございます。平素から本県の孤独・孤立対策の取組、ヤングケアラー、独居高齢者、ひきこもりの方等の支援に現場であたっていたいただき、本当に心より感謝申し上げる次第でございます。ありがとうございます。

国においても社会福祉法の改正で、孤独・孤立対策の取組も一歩ずつ進んできているというところではないかと思っております。

一方で、なかなか現場の方では、そういった対策に追いつかないというマンパワーの問題ですとか、いろいろ抱えていらっしゃるのではないかと思っております。

県の方でも、今年ワーキンググループを設けまして、具体のケースについて検討を進めたりしているところでございます。プラットフォームに関しては、皆様のおかげをもちましてプラットフォームへの参加団体も一般団体で48団体に増えております。また、孤独・孤立サポーターも121名を任命させていただいているということで、このプラットフォームの輪も広がってきているところでございます。本当に皆様のおかげだというふうに感謝している次第でございます。

本日は、各団体に活動していただくことがこの取組の一助となるというふうに考えておりまして、Tottori Mama'sの中井代表から、子育て世代の孤独・孤立対策につながる取組事例をご紹介いただこうと思っております。中井代表には大変お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

こうした事例の共有などを通じて、プラットフォームの活動もしっかり進めていければというふうに思っております。鳥取県の孤独・孤立対策の取組が一步でも進むように、皆様と一緒に頑張っていきたいと思っております。今後ともぜひよろしくお願い申し上げます。今日はよろしくお願いいたします。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

それでは、会議に入らせていただきます。会議の次第の前に、本年度第1回会議でありますので、簡単にこのプラットフォーム会議のことを説明させていただきます。

とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの概要という 1 ページの資料をご覧ください。

プラットフォームの概要につきましては、こちらに記載させていただいておりますように、孤独・孤立の問題は行政だけではなかなか対応が難しい。ただ、NPO 法人さんや社会福祉法人さんだけでも、単独対応が困難な実態があります。そのようなことから行政、民間で、タッグを組ませていただき、連携して多様な主体で幅広く、官民一体で孤独・孤立対策の取組を推進するということで、このプラットフォームを設置させていただきました。

幹事団体については、今日ご参加いただいております団体の皆様がメインとなって参加いただいております。

開催概要を見ていただきますと、令和 4 年 9 月 14 日に第 1 回会議を開かせていただきまして、プラットフォームを設立させていただき、昨年度末までで第 7 回まで開催しまして、本日は第 8 回会議となります。

次に 2 ページをご覧ください。孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事団体と一般団体ということで、令和 6 年度から一般団体をプラットフォーム団体の拡大拡充ということで募集しております。一般団体に参画ご賛同いただいた団体としましては、令和 8 年の 7 月末で 48 団体となります。その参加団体の方につきましては 3 ページの方で、団体種別、団体名ということで挙げさせていただいております。今年度も参加申込みいただいて徐々に増えつつあるところです。引き続き、幹事団体の皆様におかれましては、一般団体に加入いただけます NPO や社会福祉法人、ピアサポート団体等にお声がけいただき、団体の拡充を図っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。以上簡単ですがプラットフォームの概要となります。

それでは会議の次第に沿いまして、進めさせていただきます。

報告事項 1 番目、一般団体会員の活動紹介となります。本日は Tottori Mama's の中井代表に、子育て世代の孤独・孤立対策の取組についてご紹介いただきます。中井代表よろしくお願いします。

<Tottori Mama's 中井代表>

皆さんこんにちは。本日はこのような機会をいただきありがとうございます。

今日お話しさせていただくテーマとして、誰かがいる安心が孤独・孤立を防ぐというところでお話をさせていただきますと思います。

私は子育て世代と関わる中で、孤独や孤立は特定の人の問題だけではなく、誰にでも起こり得るということを感じています。子育て中の方や働く世代、高齢者、地域活動されている方、立場はそれぞれ違っても、誰にも相談できないとか、頼れる人がいないとか、1 人で抱え込んでいるとか、そんな状況は誰にでも起こりうるのだと思っています。

今日は私たちが活動する中で見えてきたことや、行政、企業、地域の皆さんとの連携を通して、感じていることをお話しさせていただこうと思います。よろしくお願いします。

自己紹介をさせていただきます。中井みずほと申します。2014 年から子育て世代のコミュニティ Tottori Mama's を運営しています。主な活動として、子育て世代が安心して集まれる交流の場づくり、鳥取ハイハイレースなどのイベント開催、子育て世代へのアンケート調査、行政や企業と連携した子育て支援事業などを行っています。

私がこの活動を始めたきっかけは、虐待やDVを未然に防ぎたいという思いからです。活動始めた当初

は、困っている人をどう見つけるかとか、どう支えていくかということを考えておりました。しかし、見つけることはかなり難しく、なかなかアプローチができなくて、そして私たちは専門家ではないので、これといった支える手段がなくて、活動の中で私たちができることとしてつなげていくことを活動に取り組んでいます。困ってからつなげるとか、つなげることも大切ですが、それ以上に困る前から人との繋がりを作っておくことが、孤独・孤立を防ぐことに繋がると考えています。

皆さん、子育て世代が一番困っていることは何だと思われますか。いろいろあると思いますが、家事の分担や仕事と家庭のバランス、ママ友づくりやその関係、職場環境等いろいろな悩みはありますし、子どもを育てていると成長に合わせた悩みが生まれてきます。そういった悩みや困りごとを1人で抱え込んでしまうことが課題だと私たちは考えて活動しています。頼れる人がいなかったり、相談できる人が近くにいなかったり、気軽に人に声をかけられない性格だったり、地域との接点も少なくなっています。

行政や私たちのように誰かを支えたいという団体が届けている情報が届きにくいとか、外出もしづらいついとか、人に話すと些細なことだと思われるのではないとか、家族は忙しそうで話しかけづらいとか、相手の負担を考えてしまうことがあるかなと思っています。その結果、誰にも相談できず、1人で抱えてしまうことも。1人で抱えてしまわないよう、私たちは子育てによる孤立を防ぎたいと活動しています。

皆さんはご存知のことと思いますが、孤独と孤立の違いについてまとめております。孤独と孤立は似ているようで違うというところです。孤独は心の状態で寂しいとか誰にもわかってもらえないとか、そう感じることです。一方、孤立は人との繋がりが少ない状態です。頼れる人がいない、地域との接点が少ない、誰にも相談できない。孤独は心の問題であって、孤立は繋がりの問題であるということです。私たちの活動では、孤独そのものをなくすことは難しいかもしれないけれども、人と人との繋がりを増やすことはできると考えています。

私たち、Tottori Mama's 設立当初から、毎月継続して開催しているオープンデーという企画があります。これは何もしなくて、お茶を飲んだり、おしゃべりをしたり、一緒にお昼を食べたり、時間内自由に過ごしてねという時間ですけれども、このオープンデーではここへ行けば誰かがいるという、子育てをする方々の安心の場になるといいなというふうに続けています。

なぜ Tottori Mama's を始めたのかというところで、最初に虐待とかDVを未然に防ぎたいということをお伝えしましたが、2014年に立ち上げまして、重複しますが、最初は困っている人をどう支援したいとか、困っている人をどう見つけるかということを考えていました。

私たちは専門家でもなくて、誰かを支えたいとか、誰かを守りたいという気持ちは本当にあるけれども、なんとなく支援という言葉を使うことが専門家でも何でもない本当に一市民として、今もおこがましいなと思っていますけれども、活動を続ける中で虐待やDV、孤立という問題は何か1つの出来事が原因ではなく、もう誰にも相談できない、もう頼れる人がいない、こんな孤立した状態が続くことで深刻になってしまうことが多いということだけはわかっています。

その孤立を防ぐことが私たちの役目になれるのではないかと考えて、イベント企画の運営や人と人が繋がる場をメインの活動として行っています。私たちスタッフ、Tottori Mama's という存在に安心を持ってもらえるように、日々活動に取り組んでおります。

次に、活動紹介になります。現在私たちは、大きく5つの活動を行っているところです。

まず1つ目が、毎月開催しているオープンデーです。これは何か特別なプログラムを行うというのではなく、親子が自由に過ごして、人と繋がることを目的とした交流の場です。久しぶりに大人と話せま

したとか、ここへ来ると安心しますとか、そんな声をたくさんいただいております。

次に、鳥取ハイハイレースです。赤ちゃんの成長を地域みんなで応援するというイベントで、地域企業にもスポンサーとしてご協力いただき、子育て世代と地域企業が自然に出会える機会にもなっていると思っています。

そして、アンケート調査や座談会です。子育て世代の声を集めて、行政や企業へ届けることで、当事者の声が地域づくりに生かされるように取り組んでいます。

そして地域連携で、企業版父親学級や育休復帰支援等、子育てしながら働きやすい環境づくりにも私たちは取り組んでいます。

5つ目が行政との連携です。委託事業や情報発信、イベントなどを通して、行政だけでは届けづらい子育て世代に情報を届ける橋渡しになるといいなと思って活動しています。

一見すると、それぞれ何か別々の活動に見えるかもしれないけれども、私たちが目指していることはここへ行けば誰かがいる、困ったときに何か思い出せるような存在でありたいと人との繋がりを、地域の中に作っていきなと思ってしています。

この私達の取組の積み重ねが、小さな取組になりますが、それが子育て世代の孤独や孤立を防ぐということに繋がっているような気がしております。

次に活動から見たことです。ここからは私たちが14年間活動をしている中で見たこととお伝えさせていただきます。先程紹介した、何もしないオープンデーというイベントですけれども、これは毎月開催していて、親子が自由に過ごせる交流の場となっていて、ここに行けば誰かがいるとか、そんな安心できる場所を作りたいと思って継続しています。このオープンデーの中で、あるお母さんが第1子の育休中から参加してくださっています。その方は第二子、第三子が生まれてからもオープンデーに来てくださっていますが、ある日オープンデーに初めて参加された方がいらっしゃって、オープンデーに来られる時に緊張される方がとても多いですけれども、緊張した様子でどうしようかなと1人で立っている様子がありました。その時、第一子、第二子、第三子で続けて来てくださる方が緊張している方に近づいて、「お子さん何ヶ月ですか」「こっちどうぞ」など声をかけてくださっていました。2人でお話をしながら、「Tottori Mama's があったから誰かと繋がって寂しくなかった」など、そういったお話をされているのが聞こえてきました。私はその言葉を聞いたときに、私たちが作りたいと思っていたものが私たちの手で作っているものではなく、その安心できる居場所というのは、もしかするとお越しくくださるお母さんたちが作ってくださっているのだなと感じました。最初は支えられていた人が、今度は誰かを支える人へ変わっていくという、その場面を見たときに喜びもありました。そして、初めて参加された方があまり誰とも話ができなかったですけれども、数ヶ月後にはその方も同じように初参加の方にお声をかけてくださっている様子も見えたりして、中には「Tottori Mama's のお手伝いをしたい」「子育て中のお母さんの力になりたい」などボランティアとしてお手伝いしてくださる方も増えてきましたし、個人でママの居場所づくりを始められる方もすごく増えてきたように感じています。

孤独・孤立対策というと、支援する人と支援される人、そんなイメージがあるかもしれませんが、人は安心できる場所と人との繋がりがあことで、少しずつ前を向いて今度は誰かを支えたいと思えるようになるのだなと感じています。この支えられる人が、支えられていた人が支える人へ変わるということの変化が地域の力になるのではないかなと思っています。

活動を続ける中で大切だと思うことをお話しさせていただきたいと思います。行政にも民間団体にも、

地域にも相談窓口があると思いますが、それはとても必要で大切なことだと思っています。しかし困り事を抱く方が相談しようと行動に移すまでになるまでがとてもちっと難しいのかなと感じているところです。こんなことを相談してもいいのか、大したことじゃないと思われるかもしれない、鳥取は狭いから誰かに知られたらどうしようとか、そのように相談することを悩んでしまう方が少なくないと感じています。本当は誰かに聞いてほしいけど、相手に迷惑じゃないかなとか、忙しいかなとか考えてしまって結局1人で抱え込んでしまうという場面を私も何度も見てきました。

私たちのところにも LINE の公式アカウントがあり、相談メッセージが届くことがあります。その方とじっくりお話を伺って一緒に考えたり、話を聞きながら必要に応じて専門機関をご紹介させていただくこともあります。もちろん、そういった専門機関につなぐことというのは必要なこともありますが、私たちの願いとしては相談窓口に行く、誰かに相談するという前に、この人なら話してみようかなと思える存在が身近にいることです。それは私たちでもいいし、出会った方でもいい。地域の方や民生委員さん、公民館の職員さんでも困ったらあの人に相談してみようという、そういった人が1人いるだけで、孤独や孤立は大きく変わるものだと思っています。相談窓口を増やすことももちろん大切なかもしれませんが、それと同じぐらい、日頃から人と人がつながれる機会を増やすことということも大切だと思っています。

活動を通して見えたこととお話させていただきましたが、この私達の連携として、私たち一つの団体だけでは孤独や孤立対策はできないと思っています。行政には行政の役割があって、企業には企業さんの役割があって、地域には地域の役割がある。そして私たちのような民間団体にも役割があるのだと考えています。それぞれが得意なことを持ち寄ることで、より多くの方へ安心や支援が届くようになります。連携というのは、お互いに足りないところを補い合うというだけではないと思っています、それぞれが持っている強みを持ち寄ることで、支援の方法や地域の繋がり方も選択肢が増えていくと考えています。

子育て世代の困りごとの声が私たちの方に届きますが、本当に私たちだけでは解決できないこともたくさんあります。そこで私たちは行政、企業、地域の皆さんと一緒に課題を解決できるように取り組んでいきたいなと思っており、これまで連携させていただいた例として、男性に女性の体や子育ての理解を深めてもらいたいという声がママたちから上がってきたとします。よくあるうちの旦那はみたいな感じの愚痴からといったものですが、こういった課題、不安とか不満に対して何かできないかなということ、鳥取県と連携して企業版父親学級を実施させていただきました。私たちが男性向けにセミナーを開催するとなかなか人が集まらないことがあるのですけれども、これを鳥取県さんの企業さんとの繋がりをお借りして、企業さんへ出向いて企業研修として活用させていただきました。

そして育休から仕事復帰に不安を抱く女性がたくさんいらっしゃいますが、その不安はなんだろうというところを洗い出して、その不安に対して学びをするというプログラム、これが育休復帰プログラムといいますが、そういった事業で鳥取県さんと女性の心や体、キャリア、働き方など不安となる要素に対して学びの機会として、事業として実施をさせていただきました。

子育て世代だけではなく、企業の皆さんにも子育ての理解を深めていただく機会を作っています。鳥取ハイハイレースは地域の企業さんの皆さんにスポンサーとしてご協力いただいています。企業の皆さんには、子育て世代がサービスのターゲット層になることがあります、営業という形ではなく、地域で子育てを応援する一員として企業様に関わっていただいております。そうすることで子育て世代も企業の方と安心ができますし、地域には子育てを応援してくれている人がいるという子育て世代の安心感にも

繋がるかなと思っています。

そして、アンケート調査や座談会も継続して行っています。子育て世代のリアルな声を集めて企業さんや行政、商品開発、サービスの改善、行政の施策の参考として活用していただいています。

更に現在、鳥取ママ白書というものの策定に取り組んでおり、子育て世代の実態や声が見える化し、行政、企業、地域の皆さんが共通の課題として考えられるような仕組みを作りたいと考えています。

このように 1 つ 1 つ活動は違って見えるかもしれませんが、私たちは人と人をつなぐこと、行政、医療、地域それぞれの強みを生かしながら、子育て世代が安心して暮らせる地域と一緒に作っていきたいと思っています。ただ連携は一緒に事業をするということではなく、地域で暮らす方の選択肢を増やすことになるのではないかと思います。子育てで困ったとき、行政へ相談するという選択肢であったり、地域へ行ってみるという選択肢であったり、私たちのような民間団体に話してみるという選択肢等、自分に合った繋がりが見つけやすくなるのではないかなと思っています。

行政と連携して良かったなと思うことはたくさんあるので、お話させていただこうと思いますが、私たちは行政、地域だけでは届けにくい情報が、それぞれ連携することで届けられる人が広がるということです。私たちは日頃から子育て世代と関わっているため、イベントであったり、SNS を通じてなかなか他の行政であったり企業さんであったり、接点を持ちにくい方と日常的に繋がっている中で、ここに必要な情報を届けたり、支援へつないだりする、橋渡し役になれるかなというふうに思っています。

そして、民間だから話しやすいこともあるだろうと感じました。本当の相談ということではないけれどもちょっと聞いてほしいとか、そういった声をいただくことがあります。その小さな声を受け止めて、必要であれば行政や専門機関へつなぐ、そうした役割も私たちだからこそできる役割かなというふうに思っています。

そして、アンケートや座談会で集まる声は制度だけでは見えない、日々の暮らしの中で感じていることばかりです。本当にリアルなものです。その声を行政に届けることで施策や情報発信に活かしていただけることもあります。行政と民間と役割がまた違うからこそ、連携する意味があるのかなと思っています。行政は専門性や制度があります。私は日常の中で人と繋がっているというところで、この両方が合わさることで支援の選択肢も広がって、必要な人へ必要な支援が届きやすくなるのかなと思っています。これが連携する価値にもなっていると思っています。

地域で広げたい連携として、孤独・孤立対策というと、困っている方をどう支援するかという視点になりがちだと思います。もちろんそれも大切ですけれども、私は孤立や孤独を感じる前から、人と人がつながれる地域をつくるということも同じぐらい大切だと考えています。そのため 1 つの団体・機関だけではなく、地域全体で繋がる仕組みが大切だろうと考えています。こちらは例えですけれども、公民館との連携として、公民館は地域で一番身近な場所になっています。子どもから高齢者まで誰もが自然につながれる場として更に活用できる可能性があると考えています。専門家との連携として保育士さん、社会福祉士さん、心理士さん、医療機関など、専門的な支援に繋がる仕組みがあるということで、安心して相談できる選択肢が増えるかなと思っています。

そして 3 番目の情報共有ですが、地域にはたくさんの良い取組があります。ただ知らないというだけで情報が届かなかったり、参加できないことも少なくありません。活動し合って、互いに情報共有することも大切な連携だと思っています。そして、周知協力ですが、行政、地域、企業、民間団体それぞれ情報発信に協力をするということで、こちらも 3 番と同じく必要な人へ必要な情報が届きやすくなるのだ

ろうなと考えています。

そして最後に、何かを決めてから連携をするというのではなく、地域の課題と一緒に考える場がもっと増えてほしいなとは思っています。行政だけ、民間だけ、企業だけということではなく、それぞれの立場が同じテーブルについて、この地域に何が必要だろうか、そんな話ができる機会が、孤独・孤立を防ぐ地域づくりに繋がるのではないかと考えています。

最後の方ですが、私たち Tottori Mama's が地域の皆さんとご一緒できることとしてお話をさせていただきたいと思いますが、私たちは支援する団体というよりも子育て世代と地域をつなぐ橋渡し役でありたいと思っています。例えば、行政や企業の皆さんが知りたいことを子育て世代を直接聞いて、リアルの声としてお届けすることができます。座談会ではアンケートだけでは見えない思いや背景、そういったことを伺うこともできますし、当事者の声を丁寧に集めることができます。そして私たち日頃から SNS を活用していますので、子育て世代への情報発信のお手伝いもできますし、イベントという形で地域、行政、企業、子育て世代が自然に出会える機会をつくることもできます。イベントが目的ではなくて、人と人が出会うきっかけとして考えています。行政や企業の皆さんが子育て世代の声を聞きたいとか、地域ともっと繋がりたいと思われたとき、この間に私たちが入ってお互いが話しやすい関係を作ること、私たちの強みであり、役割だというふうに思っています。

では最後になりますが、地域を作るのは行政だけでも民間団体だけではないと思っています。地域で暮らす一人一人が少しずつ関わり合いながら、繋がりを選択肢を増やしていくこと。それが誰もが安心して暮らせる地域になると、私は信じております。以上で発表は終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

中井様ありがとうございました。中井様から子育て世帯の相談しやすい社会のためにということで、地域、企業、行政との連携の橋渡し役の取組をされていまして、具体的な父親学級等の取組紹介やこういうことが連携できますということで、紹介いただきました。折角のご発表になりますので、参加されている団体の方からご質問やご感想等いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。ご発言いただける団体はミュートを解除していただいて、お名前とご発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

オンラインでちょっと発言がしづらいということもあると思います。一先ずこの度の発表を基に参加団体の方でこういうことで連携できるということがあれば事務局にご相談いただければと思いますし、直接 Tottori Mama's の中井様の方にご相談いただければと思います。

中井様、本日ご発表いただきありがとうございました。画面上ですけれども、拍手をお願いします。

それでは次に報告事項 2 番・3 番、令和 8 年度孤独・孤立対策事業の取組状況等について、身寄りのない方を地域で支えるワーキンググループ報告書案について、事務局の方から説明させていただきます。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 田中課長>

鳥取県孤独・孤立対策課課長の田中でございます。皆様には大変お世話になっております。

では、パワポ資料 5 ページのほうから説明させていただきます。まず 1・2 つ目のプラットフォームを活用したワークショップの開催でございます。ワークショップについては 2 回開催予定でございまして、

第 1 回を 10 月頃に開催、そして顔の見える関係づくりのために多くの団体の皆様の参加をお願い申し上げます。

2 目、プラットフォームの広報・交流経費の補助でございます。今年度は会員団体の 3 団体が活用いただきまして、にちなんふくしフェスタ、ダルク 20 周年記念フォーラムなど、孤独・孤立の理解を深めるためのフォーラム、交流事業の開催を支援いたします。是非こちらの方も、申請の方をまたいただければと思っております。ワークショップですとか広報の経費、これはプラットフォームが直接関係する事業でございますが、3 番からはプラットフォームの皆様にも周知や参加を呼び掛けて実施をしている事業でございます。

3 目のとっとり孤独・孤立サポーターでございます。中井さんのお話にも出てきましたけども、やはり孤独・孤立対策は地域での人と人のつながりが非常に大事でございます。そういう意味でもこのサポーター制度、更に力を入れてと思っております、8 年度は既に養成研修は実施しまして 113 名の方々の参加申込をいただきました。10 月にはですねサポーター同士の交流会を開催予定でございます。引き続き、市町村、地域や団体との繋がり、連携を図るための参画を是非お願いしたいと思っております。

4 目の孤独・孤立に係る人材育成研修でスキルアップ研修でございます。主に行政、相談支援機関の職員を対象にしまして、関係者の皆さんと連携して支援を行うためのポイントを学ぶ研修会の方を皆様には参加いただきたいと思っております。1 回目が 9 月 15 日、2 回目が同じく 9 月 17 日、米子の方で開催予定でございます。オンラインでも配信もしてまいります。

次にパワポ 6 枚目 (5)、こちら孤独・孤立解消支援事業の補助金でございます。4 つの市町村が今年度は使っていただくということで、市町村の皆様も、こちらの活用をご紹介させていただく機会がございましたら、是非ご検討いただければと思います。

6 目のピアサポートの活動支援補助事業でございます。今年度ピアサポート活動を継続される 7 団体に使っていただいております。是非こちらの補助金の周知のほうもお願いしたいと思います。

7 目、ヤングケアラー支援フォーラム、これは先日倉吉で開催をして 71 名の方にご参加いただきました。NKC さんには大変お世話になりまして、ありがとうございました。

8 目のひきこもりを考える講演会、こちらは 11 月 21 日に倉吉の交流プラザの方で開催予定としております。

9 目、ヤングケアラー支援の新規拡充の取組でございますが、今年度はヤングケアラーのコーディネーターを NKC さんをお願いをしております、引き続き事業を拡充していきたいと思っております。拡充項目としましては県の教育委員会と連携したヤングケアラー当事者による学校への出前授業を 4 校で実施するものでございます。それから継続事業としましては、ヤングケアラーの各支援機関による研修会費用の補助がございます。1 団体が申請見込となっております。引き続きヤングケアラー支援の方、進めて参りたいと思っておりますので、皆様ご協力の方をよろしくお願い致します。

続きまして、地域のきずな推進支援事業をしております。身寄りのない方への支援で今年度はワーキンググループを開催しております。背景目的としまして少子高齢化、核家族化、単身世帯が非常に増えております。身寄りのない方々への支援が特に市町村の方々は身に染みて感じておられるところ、多々あると思います。今後これがまた増加が見込まれております。身寄りのない方々がこれまで通り、住み慣れた地域において安心して生活していけるように、専門家、関係団体の知見、それから地域の住民の方々の支え合いを活用し、市町村による身寄りのない人を支える地域づくり支援体制を推進してまいりたいと思

っております。

また令和7年9月に第6回のプラットフォーム会議でも意見交換をしているところですが、国の方でも資料14、社会福祉法の改正によりまして、身寄りのない方々への新たな第2種社会福祉事業を創設する予定となっております。これは見直し内容の①になっておりまして令和10年4月から始まると聞いております。それから少し戻りまして、新規事業としてうちの方でパワポ9に、この身寄りのない方々への支援策として試行的に行う事業で10分の10の今年度事業を準備しております。単独でされる場合は上限が50万、圏域では100万としており、2つの市町村から手が挙がっておりますが、まだ残がございますので、特に市町村の皆様におかれましては9月補正で是非ご検討いただければと思っております。

パワポの10番、身寄りのないワーキングのほうで、今、1回目、2回目、3回目と進めたところでございますが、最終的には第4回の会議を10月9日に開催を予定しておりますが、そこまでに2つの項目、特に身寄りのない方の入院、入所手続きの支援、それから死後事務の対応支援、これが非常に皆さん困っておられる部分だと思っております。こういったことを中心に第4回の会議で報告書を完成させまして、特に市町村の方には報告書、研修会を実施しまして、支援体制の整備の方を行っていただきたいと思っております。

国が令和10年4月から身寄りのない高齢者等の入院支援や死後事務事業の中身を検討されているところであります。形としましては、県社協を中心として市町村社協など連携して事業を始めることになると思います。今、私の方で市町村の社協をまわっておるところでございますが、なかなか行政の方々や関係機関の方々も協力がなくて難しいという声を聞いておるところでございます。つきましては今のプラットフォームに、県、市町村、県社協、市町村社協で情報共有や意見交換を行う場を作りたいと思っております。国の方では令和8年度中にガイドラインを作るとしておりますので、それを見ながらプラットフォームでの場を作って、是非市町村の皆様にはご参加いただきまして、令和10年4月から始まる支援事業につきまして意見交換・協議を行っていききたいと思っております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

事務局の方から説明をさせていただきました。令和8年度の孤独・孤立対策の取組状況、また身寄りのない方を地域で支えるワーキングの報告、併せてこのプラットフォームの方に県、市町村、県社協、市町村社協さんを参加団体として意見交換・協議する場を設けてはどうかということをご提案させていただきました。これにつきましてご質問やご感想、ご意見があればお願いいたします。

それでは報告事項につきましては、意見交換の場で各団体の方にご発言をお願いしたいと思いますので、その時に関連してご発言いただければと思いますので、報告事項は以上とさせていただきます。

続きまして、意見交換に移りたいと思います。

本日、意見交換としまして2つ項目を設定させていただいております。

1点目が県・市町村孤独・孤立対策や、各団体の活動の更なる周知についてです。望まない孤独・孤立を防ぐため、支援を求める声を上げやすい、声をかけやすい地域社会、行政・民間・各団体において窓口の周知や住民啓発をしていただいております。その中でも各団体、各市町村の孤独・孤立対策活動について県の方でホームページの方で情報提供いただいたものを集約させていただきまして、県内の孤独・孤立対策をまとめて発信できるようなページを設定したいと思っておりますので、積極的な情報提供をお願いいたします。

たします。こちらの方は随時、県孤独・孤立対策課に情報提供いただければ、ホームページへ掲載させていただきますし、毎月のメルマガの配信でも掲載させていただいて、情報共有・発信をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

また毎年5月は国の内閣府が定める孤独・孤立対策強化月間となっております。こちらの方各団体、各市町村、県において一緒に取組み広報活動を発信していければと思いますので、来年度になりますが近づきましたら県の方に情報提供いただきましたらホームページ、メルマガでの共有やいろんな発信の仕方を検討していきたいと思っております。

そこで皆様の方は更なる啓発、周知を図るためにこのようなことを一緒に取り組んでみてはどうか、こういうことができるというご意見をお願いしたいのがまず1点目、1つ目の項目となります。

2つ目が各団体の更なる連携強化についてでございます。プラットフォーム団体間の情報共有、連携図るため、このような幹事会、会議を開催したり、プラットフォームの関係づくり、顔が見える関係性を構築するために、ワークショップを開催して、参加いただいていたところとあります。

各団体、相互の活動を更に顔が見える関係として理解、共有して、本当に困っていらっしゃる方の支援を切れ目なく一体的に取り組むために、一緒に更なる連携強化を図る取組ができればと考えています。2点目につきましては今のプラットフォーム、ワークショップやメルマガでの共有しておりますけれども、各団体間で更に連携強化、相互の取組を知ることができるような活動等があれば、ご提案いただければと思いますので、よろしくお願いします。

それではオンラインの方でご発言いただく団体の方はミュート解除して、ご発言の方をお願いします。発言の順番は参加者名簿の順に沿ってお願いしたいと思います。

それでは、1番目、鳥取県青少年ピアサポート様、お願いします。

～音声不具合のため順変更～

N.K.C ナーシングコアコーポレーション合同会社様、お願いします。

<N.K.C ナーシングコアコーポレーション合同会社>

N.K.C ナーシングコアコーポレーション合同会社の岸下と申します。今年度からヤングケアラーコーディネーター事業を鳥取県の方から委託を受けてさせていただいております。

そのコーディネーターの取組の中で、今は Zoom のオンラインサロンを月に1回、ケアラーさん同士での関わりができるような場を設けています。今までもLINE相談窓口をさせてもらっていたので、そこで周知をして、ケアラーさん同士のコミュニティ、交流ができる場を設けていましたが、今年度新たな取組としてディスコードというコミュニケーションツールを使って、ケアラーさん同士が Zoom だけではなく日頃のテキストでのやりとりができるような場を作ったというところでの取組を新しくさせてもらっています。

今後の連携というところに関して、私たちもどうやったらケアラーさんとコミュニケーション取れたりとか、孤立を防ぐってところでのいろんな情報をいただきたいなっていうところがあるので、先程言われていたように、そういういろんな情報が全部一括して集約できる場みたいなのがあると、その情報も私たちも随時こまめに発信をして、更新できて、それが取り込めるような場みたいなのがあったり、こういう会議体でもですけど直接お会いできて、お話、顔見て話せる場みたいなのもあったらいいなっていうのは思っております。以上です。

＜いのちの電話事務局＞

こんにちは。今日報告お聞きして、子育てのところで昔からこういうのがあったらいいな、特にオープンデーのところ、何も決めないで皆さんが集まってきて、そこから1つの繋がりができてくる。それから、最初は困っていて悩んでいて助けてもらっていたけど、それが今度は新しく来られた方をサポートして、そういうことが繋いでいけているというのが、何か素晴らしい取組だなと思いました。一番いいと思ったのは、ここですることを決めずに、皆さんが自由に集まってきて、話せる場があるというのは私はいいなと思いました。

うちの団体はご存じのように匿名でお電話を受けていて、互いに匿名というちょっと特殊な電話相談というか、電話相談という名称を掲げておりますけれども、実はアドバイスをしたりそういうことを目指しているのではなくて、一緒にお話をしながらその方がご自分でどうしようかな、じゃあこうしてみようかなというふうに自分で決めていただいて、ちょっと話すことで気持ちが楽になって明日ちょっとやってみるかというふうに思っていただけというところを目指しています。

子育ての中井さんのところのイラストにもあったと思うのですが、誰かに聞いてほしいけれど1人で抱え込んでしまうというイラストがございまして、誰かに聞いてほしいけれどこのところで、ここでのいのちの電話は少し役目がちょっと果たせるのかなあというふうに思いました。ありがとうございました。

＜鳥取県地域生活定着支援センター＞

地域定着支援センターのセンター長をしています、小松と申します。

まず、地域定着支援センターの活動内容ですけれども、罪を犯した高齢者・障がい者の方が刑事手続きになったときに、社会復帰するに際して、福祉的サービスにつなげることによって、結果的に再犯防止に繋がったらいいなということで、福祉サービスにつなげるところをお手伝いするというようなことをしています。それにあたっては行政の皆様や一般団体の皆様のご協力が不可欠でして、これまでもご協力いただけたということがあります。本年度は今まであまり関係が持てなかった市町村の皆様のところにこちらの方で赴いて、連携を強化しているというところがございます。

今後の連携の強化についての意見というところですが、前回のこのプラットフォーム会議で、人と動物の共生センターさんというところをご紹介いただき、たまたま私たちの対象者さんの方で、動物を多頭飼いでいて困っていたというところがあって、今回のこのプラットフォームを機に人と動物の共生センターさんと繋がって支援をいただいたということがあります。こういった形で一般団体の方がどういう活動をしているのかというのを知る機会があるといいのかなと思ったりしました。

行政の活動については比較的情報が入りやすいと思いますが、一般団体の方がどういう活動しているかわかりにくいところがありますので、そういったところにほしいときにそういう情報が得られるような取組ができるといいのではないかと思います。以上です。

＜鳥取県母子寡婦福祉連合会＞

鳥取県母子寡婦福祉連合会理事長しております井田でございます。いつもありがとうございます。当方ひとり親家庭の家庭同士の共助の団体でございます。とてもたくさん事業があって、ご紹介できるもの

が近々のものしかないのですが、ひとり家庭さんの子どもさん、県内 4 名の高校生の方に奨学金を給付することができました。毎月 3 万円 1 年間 36 万円の給付でございます。あと先週は観光バス 3 台、総勢 115 名で、浦富遊覧船のほうにバス旅行へ行って参りました。

現在はひとり親家庭さんに特化したパソコン講座を 8 月からスタートしております。まだ人数に余裕がありますので、もし、ご存じのひとり親家庭さんでパソコン勉強したいなって言われる方がおられましたら、お知らせいただきますとありがたく思います。

当方、中井さんのところと同じように毎月サロン、今年は増えまして年間 15 回サロンをしております。県の団体ですので、各地区 4 回から 5 回ずつくらいしかできないんですけれども、割とワークショップもしているので、結構すぐいっぱいになってしまって、なかなか参加できない方もいて、これをもう少し活発にできればと考えているところです。

と同時に、今までひとり親家庭で子育てをされて、子どもさんが自立されて、寡婦さんになられた方、おひとりで暮らしておられる方が結構おられます。母子ということで子育ての方の支援ということでもやってきたんですけれども、これからはやはり寡婦さんの方にも力を置いて、お互いが協力、共助の団体で何かできることがないだろうかというところ模索しております。また皆様のご支援をいただければと思いますよろしくお願いします。以上です。

<鳥取県民生児童委員協議会>

鳥取県民生児童委員協議会の岡本と申します。先程活動紹介ということで、中井様には素晴らしい活動、ご紹介いただき、本当感心いたしました。

私たち子育ての世代については、なかなか情報が入ってこない。近年民生委員も一斉改選ごとに欠員が増えていまして、昨年 12 月の一斉改選におきましては鳥取県内でも充足率 91% で、かなり欠員が多くなっています。その中で、仕事をしながら活動しておるのが現実だと思います。昔は 60 歳になったら定年で、地域の中に入っていろんな活動をしておられた方も多いと思いますが、今まだまだ 65 でも 70 でも仕事をしておられることも多くて、そんな状況でございます。

民生委員の活動と言いますと大体相談とか見守りが中心になると思いますが、私たちが住んでいるところの近所の方や町内の方の見守り、それからいろいろな気づきとかいう言い方もあると思うんですけど、そういった気づいたことを専門機関につなぐ役割が、私たちの役目です。

だから、社会福祉協議会とか、行政、或いは地域包括支援センター、そういったところの専門機関と繋がり合って、困っている方、或いは身寄りなんかとも含めて、いろいろな活動をしています。

ちょっと先程も言いましたけど、若い世代の方はなかなかそういった活動の中に入っていけないのが現状ではないのかなと思っておりますけど。高齢者の方、或いは障がいのある方に対する活動が中心になっているのが現状だと思います。

また連携ということ等が中心になっておりますのでいろいろ各団体の方とも繋がっていきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いします。以上です。

<児童福祉入所施設協議会（鳥取こども学園希望館）>

児童福祉入所施設協議会の副会長水野です。私たちは入所施設の協議会ですので、目の前にいる子たちは既に孤独・孤立の状況からは脱していると捉えながらも、支援をしている子どもを通じて、例えばその

親族や関係者に必要な支援を届けるというパターンが非常に多いです。そういう意味ではこのホームページ、非常に使いやすいし集約されているので、時々このケースでこういう対応や支援を考えなきゃいけないけどどうしたらいいだろうというときに、児入協、私たちの協議会の中でこれを共有しながら孤独・孤立対策課のホームページ見たらいいよというふうな、そういうパターンをより強めていきたいと思っています。

昨今どうしても困った人たちもA Iに頼ってどうしたらいいのだろうというようなパターンが非常に多く見受けられます。相談に来られても「A Iに聞いたらこうやって言っているんだけど」というような1つの方法ではありますが、やはりそこに人と人、それから顔と顔、そして心と心が通い合うような、そういう対策ができるのはやっぱりこういった取組だと思っているので、そこにつなげていけるような、プラットフォームがあるというのは非常に大切に、これからもより拡充していただけたらというふうに思っております。以上です。

＜日本司法支援センター鳥取地方事務所（法テラス鳥取）＞

法テラス鳥取の事務局長をしています糸賀です。法テラスはご存じの通り、法務省が管轄する公的な機関になっておりまして、法的トラブルに遭った方についての情報提供ということで、関係先機関の紹介や法制度の紹介を行ったり、経済的に余裕がない方についての弁護士や司法書士、法専門家の無料相談などを行っております。

孤独・孤立対策に法テラスで直接特化した活動は今のところ行っていないのですが、後見や借金など間接的に孤独・孤立に繋がっている原因になっているものもあると思いますので、まずはこのようなプラットフォーム会議やワークショップなどで連携を図れればと思っております。

あともう1つは今回ワーキンググループの方に法テラスの常勤弁護士が参加させていただいております。実際参加した後に、常勤弁護士や孤独・孤立対策課様の方から共有いただいている資料を基に、法テラス内でも何か孤独・孤立に対する活動ができないかということも検討しているところです。引き続き今後ともよろしくお願いいたします。以上です。

＜鳥取県弁護士会＞

鳥取県弁護士会の房安と申します。弁護士会で、孤立対策に特化した活動というのは特にはないかと思いますが、先程の法テラスと一緒になんですが、法的支援を通じて孤独・孤立対策に資するような活動は様々なにやっているかと思います。代表例としては、特に身寄りのないお年寄りで特に認知症等にあった場合には後見制度、今後大きな改正があってより使い勝手が良くなるかと思いますが、その後見人を申し立てたり、後見人選任されてた方を援助していく活動は各弁護士で行っております。

その中で特に本当に身寄りのない方の場合は死後事務委任を受けてやることも、これは後見に限らずやっています、このような分野、比較的新しい分野となっています。今後も需要が増えるのではないかと考えております。死後にこういうふうに葬儀してほしい、遺骨を納めてほしい、あと終活援助といいますが財産処分、これは後見人として関わったり、そうでなくても財産処分したり、その際に様々な問題が結構古い何十年も残ったり、そういうのを処理したりしております。

あと孤立・孤独というのが生活困窮に絡む困窮の定義の中に、決して経済困窮のみならず、社会的な孤立をもとにした困窮というのも含めて、その中で生活困窮という枠組みの中で把握するということがあ

ろうかと思います。具体には生活困窮の部署を通じて弁護士相談につないでいただくというふうな場、その中で債務の問題や相続の問題などそういうものに関わったりすることはあろうかと思います。

そういうことで特化した活動は特にはないのかもしれませんが、様々な場面でこの孤独・孤立対策に関わらせていただけるかなと思っています。私からは以上です。

<鳥取県商工会議所連合会>

実は今回私参加させていただくのは初めてでございまして、私も前職が県の職員ということで、いろんな課題解決に向けて、行政がどんな手法をやってきたかって言ったら、大体組織長でがっちり固めて先進事例的なものをたくさん集めてこれを共有しましょうというような解決手法で向かっていくというのが中心の時代の人間だったものですから、こういうプラットフォームというような形で、ある意味参加するも自由、外れても自由みたいなイメージもあるのですが、こういう柔らかい結びつきで物事に組み組んでいくということにつきましては、非常にいいことなんじゃないかなと思っているところでございます。遠藤政策統括監であります、田中参事監の性格がそのまま出てくるような組織で、非常にいいのではないかと考えております。

具体的には経済団体になりますと、個々の生活まで孤独になるとか孤立してないかなどというところに関わることはほとんどないですけども、個別の会員様の中でそういう方を抱えてらっしゃる人がいないかっていうと、決してそんなこともないと思います。そういうことを抱えながらも、将来、活動するということがあれば、こういうところで何らかの解決策といいます、解決策とはいかなくても、仲間に入って情報取っていくことで、立場がどうということなのだということが理解できるというところからアプローチしていくような機会にもなろうかと思っています。

今後そういうところでいろんな情報を共有していける形で、私共も進めていけたらいいのではないかなというこれは感想ですけどもそういうふうに思ったところでございます。つたない感想ですけど以上でございます。

<鳥取県居住支援協議会>

特にこの場で申し上げることはございません。こういうことを継続してやってくればいいのではないかなと思います。以上です。

<鳥取県社会福祉協議会>

鳥取県社協の川瀬です。孤独・孤立対策という関係で言えば社協と県内の社会福祉法人でえんくるり事業という事業に取り組んでおります。この事業、制度の狭間の支援に取り組んでおりまして、近年ではひきこもりの方等の就労体験事業を実施しております。

この事業は、ひきこもり等の方が生活リズムを取り戻したいとか、就労体験したいということがあったときに、このえんくるり事業に参加する社会福祉法人でいろいろな体験を受け入れていただいています。草刈をしたり、何か組み立てをしたり、掃除したりなど、そのようなことを続けながら生活リズムを取り戻すというふうなことに取り組んでいます。

実際このプラットフォームに加入される団体の方と連携して、支援しているようなケースもありまして、体験した方は生活リズムを取り戻したりとか、自分の得意なことであったり苦手なことであったり、

改めて気づいてやったりとか、あと就労にも結びついたような方も出てきているような状況です。

それともう1つ、今日の県の報告がありました身寄りのない高齢者等の支援については、6月に社会福祉法が改正されて、第二種社会福祉事業として、身寄りのない高齢者支援に関する事業を実施することが決まったんですけども、今後、社会福祉協議会が担うという部分もあるとは思うのですが、法律上ベースとなるのは包括的な支援体制を中心に地域の関係機関や地域資源と連携しながら役割分担して進めることとされています。この新たな事業についても対象者の範囲や支援内容についてなど、国の方からもガイドライン等がまだ示されておられませんので、全容がわかってない部分があるんですけども、全てにおいて社協だけで対応するっていうのは困難だと考えておりますので、今後とも各地域の関係者との連携により、それぞれの地域に沿った支援に向けて皆様と一緒に考えていけたらというふうに考えております。以上です。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

ワーカーズコープ様の方から、チャットの方で情報提供いただいております。

ワーカーズコープの元吉様の方から、鳥取県の方から委託で生活困りごと相談の窓口を週2回、県立鳥取、倉吉及び米子ハローワークにて開設しています。今年度からはLINE相談も本格的に実施しています。当窓口のチラシを作成中のため出来上がり次第、各団体さんに広報のご協力をお願いすることと思います。また、あらゆる困りごとの相談を受けておりますので、ご活用いただければと思います。ということで、ご意見いただいておりますので、ご承知おきください。

ありがとうございます。

続きましてですね、行政の方に移らせていただきまして、鳥取市様の方、お願いします。

<鳥取市中央人権福祉センター>

鳥取中央人権福祉センターの川上です。よろしくお願いします。

鳥取市でも孤独・孤立対策については重要施策として取り組んでおります。具体的な取組ですが、つながりサポーターの養成に力を入れていまして、今現在、直近で860人の登録をいただいています。今力を入れているのは、つながりサポーター同士の関係づくりということであつながりミーティングという形で、各中学校区でつながりサポーターさん、関係機関、行政機関等が集まっていただいて、顔の見える関係づくりを、それぞれの力を入れております。

次、啓発の強化の対応ということで、センターの方にLINEとかホームページ、メールマガジン等いただいまして、これをわかりやすく作っていただいて活用させていただいています。今感じているのが、そういったLINEとかデジタル媒体だけじゃなくて、身近な生活導線という形で例えばアナログになりますけどもスーパーとかチラシとかテレビとか、そういったアナログ分野でも広報もあつたらいいかなと思っています。

最後連携づくりの強化についてですが、やはりこういったいろんな機関がいろんないいことをしているのですが、そういった事業を知らないとかわからないということがよくありますので、定期的な、こういった情報交換会を開いて、こういった団体がこういったことをしているということ、周知いただく機会ですね。先程もありましたけどもやはり直接顔を合わせて話し合ってお互いの関係づくり、そういった機会があつたらいいかなと思っています。以上です。

＜米子市福祉政策課＞

米子市福祉政策課、橋本と申します。よろしくお願いします。

プラットフォームの方では周知をしていなかったのですが、先日7月23日にえしこにひきこもりの理解と支援セミナーというものを、午後1時から午後4時で実施をいたしました。目的としましては、ひきこもり状態に関する理解を深めていただくことと、あとは当事者や家族の方に身近な相談先があるということを知っていただくということを目的に行いました。

市内市外合わせて合計38名の方の出席がありまして、内訳としてはひきこもりの当事者の方が2名、ひきこもり・不登校のご家族の方が10名、支援者の方が9名で、あとその他関心のあるような方が17名というような内容でした。

会の中身としましては、鳥取県精神保健福祉センターの原田所長の方に前半1時間半ほど講演をいただきまして、そのあと後半は、当事者の方だったり家族の方だったり、属性ごとに分かれて交流会のほうを行っていただきました。交流会の方も活発でして、例えば当事者同士で日々どのようなことをしているかとか、どういった居場所が地域にあるかとか、ご家族同士でどういった心構えをして当事者の方に接しているかとかいったような意見交換が行われていました。

こちらとしましては当事者の方や家族同士の繋がり、これを作ることができたというのが大きかったかなと思っております。本年度5回予定しており、次回は9月11日に予定しておりますので、また周知をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

＜倉吉市福祉課＞

倉吉市福祉課の瀬尾といいます。よろしくお願いいたします。

倉吉市では孤独・孤立ということで、令和6年度に市民の皆さんや民生委員さん、支援関係機関さんを対象とした実態調査を行いまして、その結果をふまえ居場所が必要というふうな見解になりまして、令和7年度から地域活動支援センターを1ヶ所設置して補助を行っております。更にニーズに応えるということで、本年度からはもう1ヶ所増やして、2ヶ所ということで拡充をしております。徐々に、その場に来ていただいて、活動いろんなことをしてくださるような方も増えてきまして、実際に就労の方に繋がったという事例も出てきております。

あとは、精神的な課題を抱えている方へのアプローチということで、専門的な知識が必要ということで、仁厚会さんの方に委託をさせていただいて、そういった方へのアウトリーチということをお願いしています。

あと個別にひきこもりということで相談いただいた方には、本人さんには会えないこともあるのですが、家族さんですとかお手紙差し上げたり、お電話させてもらったり、訪問させてもらったりということで、繋がりが途絶えないようにというような訪問の活動の方続けさせていただいております。以上です。

＜岩美町健康福祉課＞

岩美町です。よろしくお願いします。

鳥取市さんが言われたのですが、つながりサポーターの養成講座を5月にさせてもらいました。あと

は各地区の公民館や社協さんと一緒に健康マージャンを取り入れまして、定期的にそれぞれの地区で開催されています。高齢の方中心ですけど男性女性限らず参加されていて、秋には町長杯というような形で大会を開き、参加者が増えているところです。

また今年度から重層の事業に取り組んでいまして、見守りという形で特に包括支援センターさんが高齢者訪問をしているのですが、その中でも特に身寄りのない方を中心に関係づくりというのを進める中で、今後の取組について検討しております。以上です。

<智頭町福祉課>

智頭町福祉事務所の松村と申します。今日はありがとうございます。

智頭町では総合相談窓口ふくりんというものを設置しておりまして、断らない窓口という対応をしています。そこからいろいろな機関とか重層会議とかに繋がっていくっていうような仕組みにはなっております。あと、民生児童委員さんと地域包括支援センターの連携をしっかりとっておりまして、支え愛台帳という、ちょっと地域で気になる方々をしっかりと見守っていこうという体制をとっております。

福祉事務所という立場柄、いろいろなケースが回ってきますが、その中でやはりサポートが必要だと思われる方が、どうしてもその行政に対する拒否感やお住まいの地域に対する拒否感を持ってらっしゃる方が少なくないという印象です。そういった方々の心をどういうふうにはぐしていくのかっていうことは重要だと思いますし、どうしてもその対応が特定の職員であるとか、特定のワーカーとかっていう属人的な対応になってしまうこともあると思いますので、サポートが必要な方に必要なサービスであるとか情報をいかに公平に提供していくのかっていうことで、お話にもありましたがともそういったデータベースっていうものを広域で連携しながら作っていくというのが重要なかなあというふうに思いました。以上です。

<三朝町健康福祉課>

三朝町健康福祉課、担当佐々木と申します。

三朝町は特に孤独・孤立対策というようなものはしていないのですが、この度健康マージャンを今年度から取り入れまして、社協さんの方で定期的に大会を開催するような運びとなっております。これが孤独・孤立の対策になるかという感じはありますが、とりあえずやってみようというところで進んでおります。

孤独・孤立の相談ですが、組織が小さいこともありまして特段重層的支援というものはまだ取り入れておらず、日頃の相談の中で介護や障がい、子どもさんの問題、生活困窮様々な視点を意識しながらお話をお聞きして、フロアが狭いですのですぐに担当者が集まってきて、対策というか支援の会議をしているというようなところになっております。以上です。よろしくお願いします。

<湯梨浜町福祉課>

湯梨浜町福祉課の田中です。今日はありがとうございます。

湯梨浜町の方では孤独・孤立対策の一環で7月に福祉講演会を開催しました。地域づくりっていうところをテーマにして、前半は鳥取大学の竹田先生に講演をしていただきました。後半は町内で活動しておられる団体さん、高齢部門、子ども部門、あと年齢に制限ないところっていうところで3つの団体か

ら、トークセッションをさせていただきました。昨年に比べて参加者の方も、120名と多くの方が参加していただいたのと、あと一般の方の参加が増えたっていうところはよかったなって思いました。

参加された方の感想も、できることからやってみようとか、そういう活動をしておられる団体のことが知れてよかったっていうところでは、情報発信ができてよかったなというふうに思っております。

湯梨浜の方では、6年度から重層を取り組んでおりまして、その中でほっとテラスっていう相談窓口を設置しております。年々相談件数も増えてきておりますし、相談の中からケースの中でひきこもっておられる方とかも出てきておりますので、今後も相談窓口の周知ですとか、そういうものはやっていこうというふうに思っております。以上です。

<琴浦町福祉あんしん課>

琴浦町です。今日はありがとうございます。

琴浦町では、孤独・孤立対策の一環として、悩みなんでも相談という巡回相談会を月2回開催しています。地域の身近な公民館とか、そういった場所に相談員が出向いて、何でも相談を受け付けますよというもののなのですが、ちょっと役場に相談に来にくいわっていう方が相談に来られたりとか、ただお話をしに来るだけっていう方もおられて、そこからなかなか家から出られなかった方が地域の活動に入れるようになったり、そういう事例も見られてきています。本当に相談しやすい場所を作っていくっていう意味では、ものすごく有効な機会になっていると感じているところです。

今日いろいろお話を聞かせていただいて、また今後の取組の参考とさせていただきたいと思います。今日はありがとうございました。

<北栄町福祉課>

今日はありがとうございます。北栄町福祉課の松嶋です。

中井さんのお話をお聞きしていて、いろいろな活動の場が安心、安全であることがすごく大事なことだということを、改めて感じました。その場所を継続することがすごく大変なことだと思いますので、活動団体を周知していくことも、活動継続の支援に繋がるのではないかなと思いながら聞かせていただきました。

また、地域全体で繋がるのが大切だとの話がありましたが、まさにその通りだと思いました。今北栄町も包括的な支援体制の整備に取り組んでいますが、包括的支援の根幹になるのは地域の繋がりや地域全体が繋がっていくことだと思います。

昨日ひきこもり支援をテーマに、北栄町の関係機関が集まって、支援に繋がりにくい人、自分では相談に来られない人などどのように繋がっていくかを検討するつながる会議という連絡会を開催したところです。その会議の中でも、どのような団体がどのような活動をしてるのかということをお互いに知ることが大事だという意見が出ていました。そういったメンバー同士が近づいて、顔を見合わせて意見交換や活動を共有できる場を作っていきたいと思いましたので、引き続きいろいろな団体の活動も知っていきたいと思っておりますし、中部の圏域でどの団体と繋がることができるのか分からないところもありますので、今日ご参加の皆さんの活動圏域も併せて共有いただけたらと思いました。今日はありがとうございました。

<大山町総合福祉課>

大山町総合福祉課の田子です。よろしくお願いします。

大山町では今年度も相談窓口の設置や、地域コミュニティケア事業を委託して実施しています。この事業の中でおせっかい人の養成や暮らしの保健室を開催して人と繋がる機会を提供しています。今年度からこの暮らしの保健室に町の保健師が同行して参加させてもらって、その中で繋がったケースがありました。今後も引き続き続けていきたいと思っています。以上です。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

南部町様の方は、所業がありご退席されており、チャットの方にご意見をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

南部町としては孤独・孤立対策事業の一環として、ひきこもり支援ステーションの設置やひきこもりサポーター養成研修の実施、地域振興協議会を核とした地域福祉の推進による地域の中での相談窓口の設置やいわゆる居場所づくりの実施などを行っております。

という今の活動をご紹介いただいております。ありがとうございました。

<日南町福祉保健課>

日南町福祉保健課の岩佐です。

日南町の方、孤独・孤立対策について具体的には事業を実施していないですけども、小さな町で福祉保健課の中に包括も福祉事務所の方も、また健康づくりやこども若者未来課ともワンフロアで対応していますので、そういった困ったケースがあれば、随時担当者の方で寄って相談をしているというふうな現状にあります。

令和8年3月に日南町における身寄りのない人への支援に関するガイドラインというものを、町独自の方で作成しまして、それを基に町内の関係機関とも情報共有をしたところです。実際に身寄りのない方が亡くなられてというケースの対応もあったりしましたので、そういった関わりをちょっと振り返って、今後もそういった身寄りのない方の支援が数多く増えてくるだろうということを想定したガイドラインになっています。こういったものを民生委員さんとも共有しながら地域で見守り続けていただいておりますので、そういった困ったケースがあれば、随時福祉保健課にという形で日頃から連携とらせていただいている状況にあります。以上です。

<日野町健康福祉課>

日野町健康福祉課湯原と申します。本来、坪倉が出席の予定でしたけれども、急用入りまして代理で私の方が出席させていただきました。

日野町としても孤独・孤立と銘を打った事業ではないのですが、まず高齢者福祉の観点で言えば、介護サービスを対象でない方で75歳以上の方を対象に見守り訪問をする職員を設置し、実施しております。また忘れんぼカフェを月1回開催しまして、出かける機会の提供を行っているところです。

障がい福祉においては地域生活支援拠点事業というものを昨年度から展開しておりまして、やはり困られる前からの繋がりを持てるよう、掘り起こしをちょっとスローペースではありますがありますが、展開しているところです。

その他月に 1 回、日南町さんも言われましたけれども、日野町の方も福祉事務所や地域包括支援センター、健康センターがワンフロアですぐ集まって会議が開けるような状態ですので、支援調整会議ということで他分野の職員が集まってひきこもりの方であるとか、子ども関係、生活困窮、介護高齢の関係の方で情報提供を行いまして、アセスメントに上手く生かせるように会議を開いているところです。

また社協さんとも連携して町内の情報把握には努めているところです。以上です。

<江府町福祉事務所>

江府町福祉事務所の浦部と申します。よろしくお願いします。

江府町でも特に孤独・孤立に対する特別な事業を区別して行っているということではございませんが、孤独・孤立に陥る前に見守り等力を入れて、リスクの生じやすいような方をあらかじめピックアップしたり、地域包括支援センターや民生児童委員さんとの連携を深めながら、地域のことを知りながら、すべての町民の方について情報を把握できるような体制をとっております。

月 1 回は社会福祉協議会と地域包括支援センター、そして福祉事務所とも連絡会を実施しまして、お互いに持っている情報を共有しながら、町民さんの把握に努めております。

そういった日頃変化を確認しながら、リスクのある方の動向を注視しながら、必要なときに必要な支援が行えるチャンスを伺うということを努めております。そういった形で、町民さんの情報を把握しながら、いつでも動けるような体制をとるということを考えて今実施しているところです。以上です。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

八頭町さんはチャットの方で活動紹介をいただいておりますので、読ませていただきます。

八頭町では 4 月より社協さんに委託をしまして、ひきこもり支援センターを開設しました。当事者・家族の方より通所についての相談もあります。また、各地域でまちづくり委員会を立ち上げていただきまして、健康づくりや集いの場を設けています。まちづくり委員会で、何でも相談の窓口を開設していただき、相談の受け付け、支援員の気づきなどで支援をつなげていますということで、ご紹介いただいています。

<鳥取県教育委員会>

県教育委員会の下田です。よろしくお願いします。

今日は Tottori Mama's さんのお話であるとか、各団体のお話を聞かせていただいて本当にありがたいなと思っています。改めて情報を共有すること、知ることの大切さを実感しているところです。

では、県教育委員会としまして、大きく 2 つの取組についてお話をさせていただきます。

取組の 1 つ目としまして県教育委員会では、昨年度に引き続きまして、孤独・孤立対策課と連携しまして、ヤングケアラー支援の取組をさせていただいています。7 シート目でも今日説明があったのですが、生徒支援・教育相談センターの教育相談の担当者がヤングケアラーの相談も受け付けているということ、また昨年度から引き続きまして、県教育委員会の人権教育課が主管課としまして、孤独・孤立対策課と連携して、ヤングケアラーの出前授業の実施について周知させていただいております。今年度は 4 校が実施をしているという状況です。

学校で、ヤングケアラーの心配がある児童生徒が存在すること、また児童生徒がサインを発信している

可能性があることは十分に考えられますので、学校の先生方にヤングケアラーの課題への意識を高く持っていていただきまして、どう対応していくか、どう相談につなげていくかということを認識していただくのは大切であるというふうに考えています。

2つ目としまして、教育の中でも大きな課題となっています不登校についてです。この不登校について支援・対策に努めているところなのですが、ひきこもりとの関連としまして、ひきこもりを呈する人のうち、小学校時の不登校の経験がある人が約 10%、中学校時の不登校の経験者が約 30%、また、小中高大学等での不登校経験は約 60%という報告がございます。こういった将来のひきこもりの未然防止にも繋がる取組としまして、県教育委員会では不登校対策により一層力を入れています。

具体的には、学校内の教室以外の居場所としまして、校内サポート教室の設置。また、学校外の居場所としまして、市町村設置の教育支援センター、民間施設でありますフリースクール等の認定等によりまして不登校の児童生徒の学びや居場所の保障、そして、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用等もあわせて、早期の対応によって重篤な状況になる以前での支援にも力を入れています。

また令和 6 年 4 月に、県立夜間中学まなびの森学園が、鳥取市にある鳥取県教育センターの隣に開校しました。この学校の対象となる方として、中学校を形式的に卒業した、いわゆる不登校等によって、学校に通えなかった方っていうのが、今通っている方の中でも、結構たくさんおられるというような状況になっています。このまなびの森学園のコンセプトとしまして、学ぶ喜び、繋がる喜び、社会の中で生きる喜びということを目指しているところですので、今日たくさん出てきています繋がり、社会との繋がりと、自信をもって社会の中で生きていくというようなことを目指して、教育を進めているところでございます。今後ともよろしくお願いいたします。以上です。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

鳥取県青少年ピアサポート様の方が、チャットの方で活動紹介をいただいております。読み上げさせていただきます。

当法人はひきこもり相談支援を行って 20 年近くなります。平成 21 年度からデータを集計しており、当初の相談数は 891 件でしたが、令和 7 年度は 6,475 件となっております。相談は 4 割近くが母親で、当事者支援に至る前に、家族支援を重要と考えています。居場所支援においては、当事者会と家族会を設けており、家族を抱える課題に相談を行っていますと活動紹介いただいております。

また参加団体の皆様の方から、孤独・孤立対策の紹介と連携についてご意見いただきましてありがとうございます。事務局の方もせっかくいい取組をしていただいておりますので、周知を一緒になって行っていこうと思いますので、その際いろいろご協力、ご相談しますので、よろしくお願いいたします。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 田中課長>

時間も迫ってまいりましたし、全ての方に県でお話することは難しいのですが、ちょっと気になったのが一般団体の方の活動内容を知りたいというお話がありました。うちの方ではメルマガを皆さんの方に流させていただいていると思いますが、そのメルマガの方で 1 つずつでもご紹介をできるようにしたいなと思っています。

あと実際にみんなが集まって顔を合わせる機会もあったほうがいいのかというお話もございました。パワポの 5 つ目の方でワークショップとか講演会なんかを今年 10 月に開催を予定しております。日程は

別途周知をさせていただきますが、そういった皆さんが集まれるような機会も予定をしております。

またメルマガ等で周知をさせていただくので、是非ご参加いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

<鳥取県 遠藤政策統括監>

本日はいろいろなご意見をいただきありがとうございます。本当に現場でいろんな工夫をしながら、社会的な孤立だとか孤独に陥っている方々に対する手を差し伸べていただいているということを改めて実感した次第でございます。本当に取組に頭が下がる思いでございました。

特に中井さんの方にはお話をいただきありがとうございます。私の方も特にオープンデー、気軽に繋がりを作るような取組だということで非常に感心したところでございます。困る前から繋がりを作るということは本当に大事だというふうに思いました。

なかなか自分自身を思っても、繋がりを作るというのが地域の人と人間関係作るとかってまた面倒くさい一面があるということだと思います。困る前に繋がりを作るっていうことがなかなかできないところが今の社会の難しいところなのだろうなというふうなことを思ったりもいたしました。

今後もこのようなプラットフォームを通じて現場の工夫だとか具体の取組事例の共有などを通じてしっかり現場の解決に繋がるようなことになっていけばというふうに思いますし、また、今日ご参加の皆様はどのような形でも結構ですので施策につながるような提案、現場の課題解決に繋がるようなご提案などをいただければと思います。また、予算化だとかいろいろな事業づくりだとか、連携の取組だとか、いろいろ考えていきたいと思います。

今後もこのプラットフォーム、拡大・強化していきたいと思います。是非これからもよろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

<鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 若原補佐>

それでは、第8回プラットフォーム会議終了します。ありがとうございました。